

## 「課題名：食道癌に対する放射線療法の治療成績の検討」について

### ○ 研究の意義・目的

食道癌に対する放射線療法は根治治療の一つであり、手術と比較して侵襲が少なく、高齢者や合併症を有する場合にも比較的安全に施行できます。また、臓器温存が可能であるという明らかなメリットがあります。しかしながら、放射線治療特有の副作用もあります。また、手術を含め進行食道癌に対する治療成績はいまだ不良であり、集学的治療の一環として術前化学放射線療法が用いられることもあります。術前化学放射線療法で腫瘍が消失する症例では根治的放射線療法で治癒が得られる可能性が高いものの、治療効果を予測する因子はいまだ明らかになっていません。本研究の目的は、食道癌に対する放射線治療成績を検討し、有効性、安全性および予後予測因子を検討することです。

### ○ 研究対象者

2000年1月1日から2029年12月31日までに、広島大学病院放射線治療科で食道癌の放射線治療を受けられた患者さんを対象とします。

### ○ 研究方法

本研究は、下記の診療録（カルテ）情報を転記して行います。

年齢、性別、全身状態、生活歴、基礎疾患の有無と内容、重複癌の有無と内容、各種検査結果、放射線治療に関する情報、化学療法に関する情報、手術に関する情報、病気の再発の有無、副作用の有無と程度、最終状態

### ○ 学外への試料・情報の提供

ありません

### ○ 利用または提供を開始する日

本学における実施許可日 2021年3月25日

### ○ 試料・情報の管理責任者

広島大学大学院医系科学研究科 放射線腫瘍学 准教授 村上 祐司

### ○ 研究期間 実施許可日～ 2030年3月31日

### ○ 個人情報の保護について

試料・情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないようにします。調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

\* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-1545

広島大学大学院医系科学研究科 放射線腫瘍学 准教授 村上 祐司 (研究責任者)

広島大学病院 放射線治療科 講師 西淵 いくの (担当者)